

はしがき

近年、日本社会は大きく変化しています。女性の社会進出もその一つで、あらゆる分野で活躍の場ができています。また受け入れる側も、男女雇用機会均等や男女共同参画など積極的に支援しています。しかしながら現在まで、仏教界では女性は劣位に置かれ、男性優位の世界といえます。わが日蓮宗に於いても例外ではなく、過去に宗会議員に女性教師が一人選出されただけで、女性が宗門の組織に関わることはほとんど無く、宗門に女性教師の声を取り上げてもらう機会さえないのが現状です。

宗祖日蓮聖人は、男性社会であった鎌倉時代に女性の人格を認め、女性の成仏を唱えられました。日蓮聖人は世間・出世間にわたって、五障三従、不浄で罪深い身といわれて苦悩していた女性達に、女人成仏を説きあかし、女性達が妙法蓮華経提婆達多品第十二の説く龍女成仏を手本として女人成仏の道を踏み分け、「法華経の女人」として生きるよう励まされました。しかしながら今までの宗門においては、その御心が十分に生かされてこなかったと思います。

女性教師や寺庭婦人は、布教活動の現場では男性教師の活動を支え、法器養成にあっては母親として重い責任が委ねられていながら、その役割が正しく評価されていませんし、具体的に検討されたこともありません。また地域によっては女性教師に対する厳しい不平等の現実があり、多くの女性教師は、男性教師の補助的立場しか認められていないのが実状です。このことを男性教師の皆様にも、このアンケート結果より認識して頂きたいと思います。

宗門では立教開宗750年慶讃特別布教のテーマとして「誓願」を掲げ、「私たちの誓願行」の一つとして「生命尊重と平等を」と題し、「生命を第一の宝として尊重し、仏性を互いに敬い、差別のない平等な社会を築いていこう、法華経の女人成仏の教えを体して、お題目を女性に唱えるようにすすめた日蓮聖人の誓願を受け止め、男女不平等をなくし、女性の願いにこたえる誓願行に努めていこう」とあります。社会に男女平等を訴えると共に、まず教団内に男女平等、共同参画を実現していくことが大切だと思います。

そこで、日蓮宗現代宗教研究所女性教師プロジェクトチームでは平成14年10月、全女性教師1015人にアンケート調査を実施しました。このアンケートを基に女性教師の現状を把握し、一人一人の「篤い想い」が萎えていくことのないように、教師同士が連携を持ち、協力しあい、宗門に女性教師の新しい風を吹き込むことが出来るよう努力したいと思います。

そして女性教師の皆様にも、平等に活動するために一層の研鑽と努力が必要なことを感じていただければと思います。

この調査実施にあたり御協力下さいました女性教師の皆様にも、深く感謝いたします。

日蓮宗現代宗教研究所女性教師プロジェクトチーム

代表 伊藤 美妙

大島 豊扇・影山 妙慧・亀井 妙禮・山田 妙眞・山田 妙慧